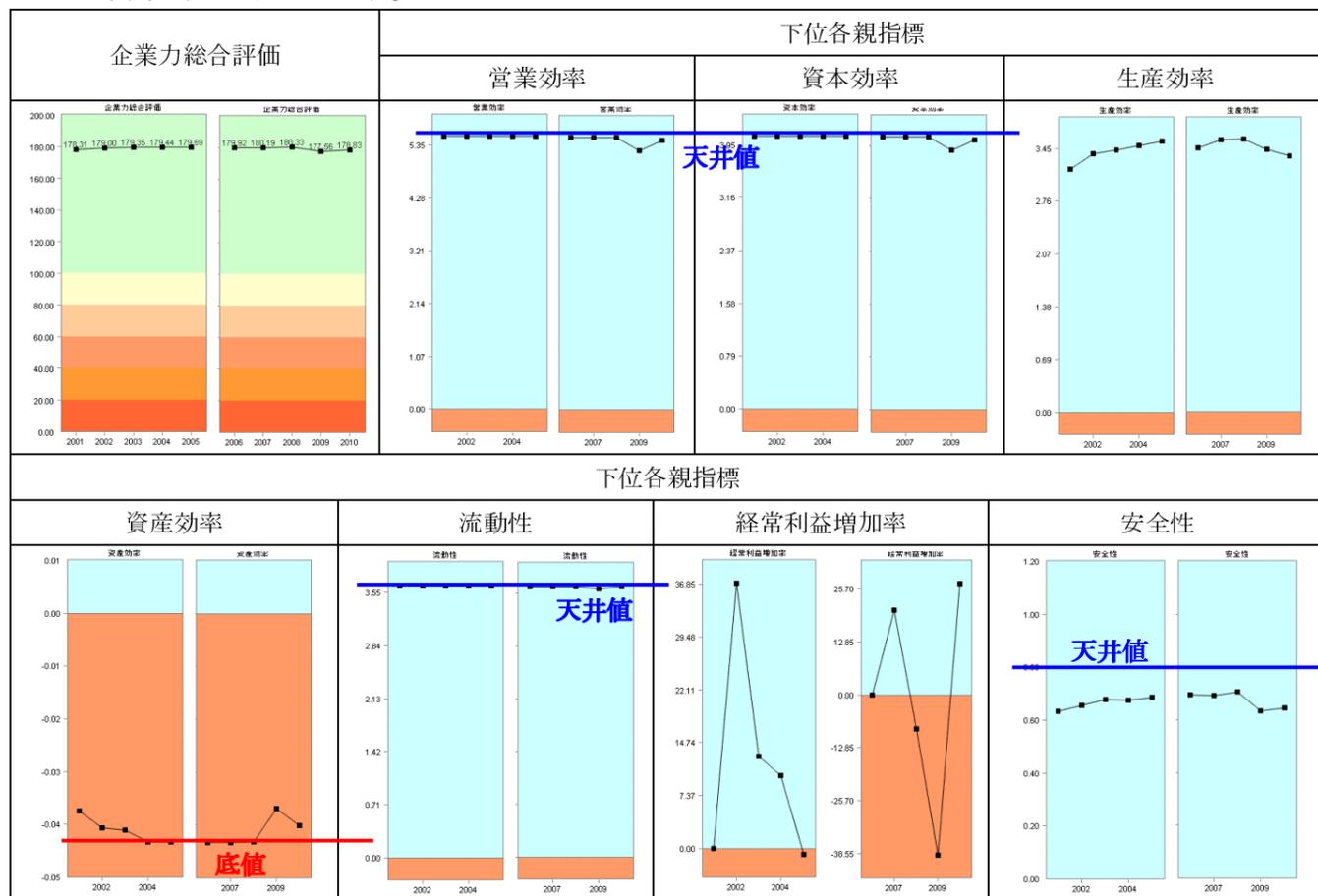


今回は、武田薬品工業株式会社を見てみましょう。武田薬品工業(株)と言えば、素晴らしく良い会社との評価でしょう。リーマンショック後の大恐慌の中、どのような経営をされているのでしょうか。過去10年間を見てみましょう。



企業力総合評価は、10年間180ポイント弱の高得点をマークしています。2009年のリーマンショックの年は180ポイントから177ポイントへ3ポイント下落しましたが、2010年179ポイントに戻っています。

営業効率（儲かるか）、資本効率（資本の利用度）の指標は10年間ほぼ天井を打っています。2009年僅かにへこんでいます。生産効率（人の利用度）は2009年、2010年と僅かに下落してきています。資産効率（資産の利用度）はほぼ底値です。これは、投資を沢山して、資産効率が悪化しているということですが、この会社の場合、その投資は成功している（営業効率が天井を打っている）ので問題はありません。流動性（短期資金繰り）は10年連続して天井値です。

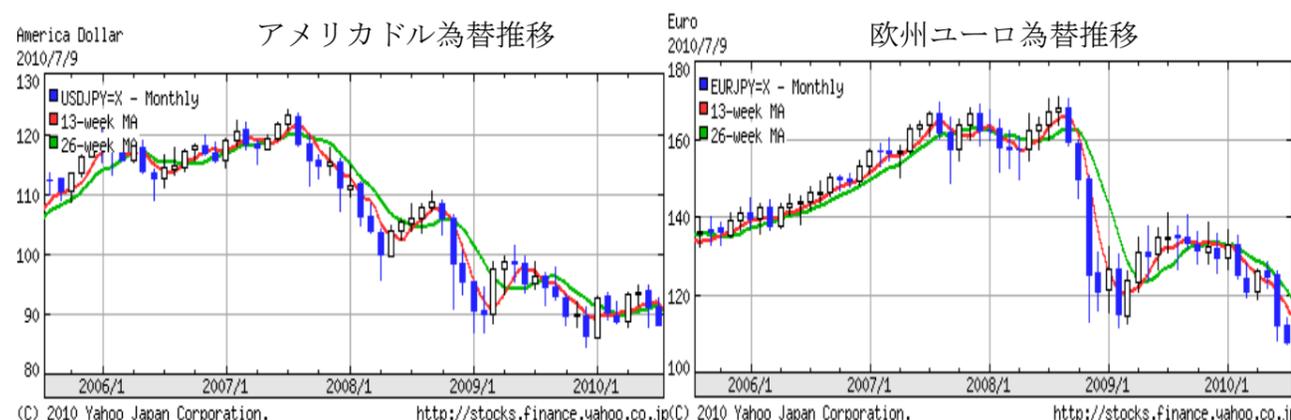
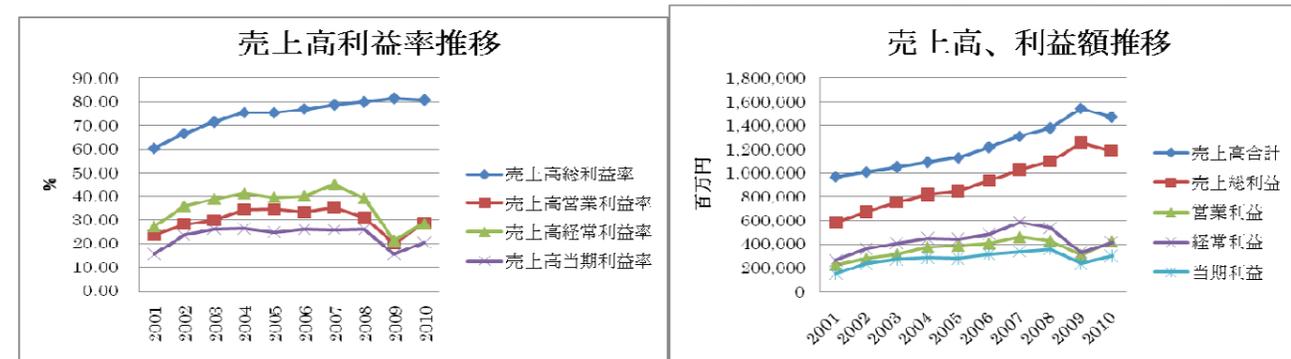
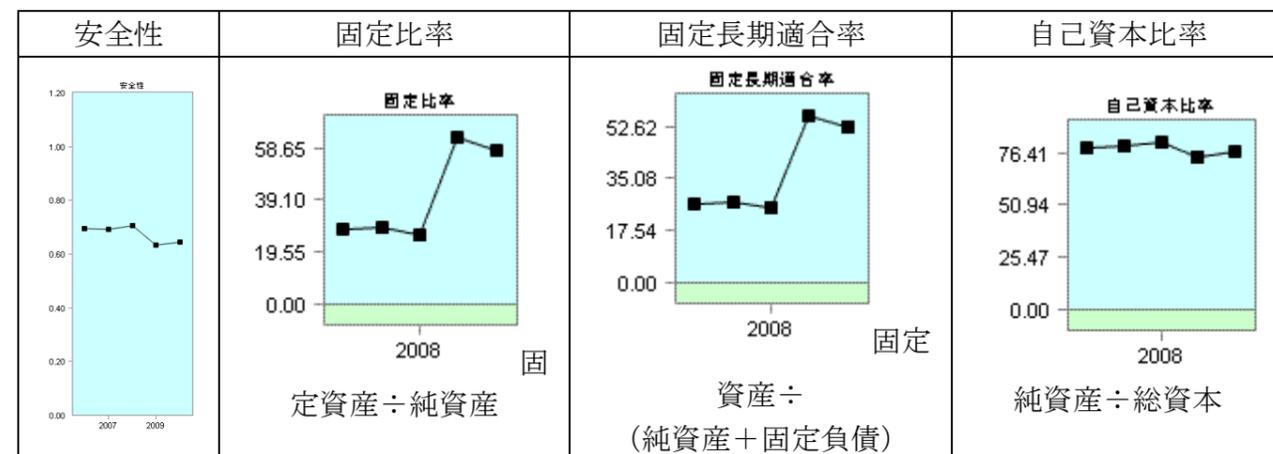
経常利益増加率は2008年2009年マイナスでしたが、2010年プラスに転じました。安全性（長期資金繰り）は青信号高位です。2009年に下がりました。

晴らしい成績ですが、やはり気になるのは2009年です。営業効率、資本効率、生産効率、安全性が悪化、経常利益増加率が大きくマイナス（△39%）になり、資産効率は改善しました。どんな舵取りを行ったのでしょうか。新聞誌上でも話題にされたと思いますが、その舵取りが企業力にどれくらいのインパクトを与えているか、明確に分ります。

2009年の安全性指標が下がった原因は何でしょう。

固定資産が激増、その内訳は「のれん」2,797億円、「特許権」4,541億円、

計7,339億円の増加です。ミレニアム社を8,335億円で買収し、子会社化したことで発生しています。2010年、ミレニアム社の多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド」の伸長があったものの、為替レートが対ドル、対ユーロとも大幅な円高となった影響（647億円のマイナス）などにより、減収となりました。



まとめ

増収増益を狙って次々に手を打つ武田薬品工業(株)ですが、その努力も為替変動という波にのまれていきます。企業経営とは、気を抜くことのできない舵取りなのですね。

編集後記 ようやく朝晩涼しくなってきました。夏の疲れが出る頃ですが、この時期にしっかりコンディションを整えて、年末までの残り3ヶ月間も、元気を出して行きましょう。文責 MS 〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-9-21 SARUKIビル4F 猿木真紀子税理士事務所 Tel 06-6631-4570 Fax 06-6631-7970 info@saruki-tax.ne.jp http://www.saruki-tax.jp